

マンスリー

サンズ・トーク(50)

2013.1.1

新年あけましておめでとうございます

木村 讚

本年は、年初から自公政権が発足する。景気回復、内政、外交、安保、防衛の諸問題がきちんと整理されてゆくことを期待したいと思っています。ところで、昨年暮れ、友人と東京の田町から三田付近を散策し、幕末、明治を大きく動かした英傑の足跡を見て歩きました。

江戸開城会見の地・田町



慶応4年、京を発した官軍が江戸に進攻し、あわや戦争という瀬戸際、薩摩の西郷隆盛と幕府側の勝海舟が会見し、幕府が大政を朝廷に奉還し、江戸城を明け渡して新政府に移行することを決めた。それがJR田町駅前のあたりの薩摩藩蔵屋敷だった。今では、三菱自動車のビルになっている。

福沢諭吉が創始した慶応義塾・三田

田町からほど遠からぬ三田には、同時代に、中津藩士の福沢諭吉が創始した慶応義塾がある。

諭吉は、小壮のころ長崎で蘭学を修め、大阪の緒方洪庵の塾に学び、安政5年(1858)には25才で江戸築地の中津藩の屋敷で蘭学塾を始めた。翌年、日米修好通商条約ができて、蘭学はもう古い。英学でなければ時流に適さないと知って手探りで英語を勉強し、英学塾として活動することにした。万延元年(1860)、幕府はアメリカへ咸臨丸で使節を派遣することとなり、諭吉は軍艦奉行の従者として随行

した。この時は、勝海舟が操艦指揮官だった。諭吉は、渡米のあと、遣欧使節として欧州へも訪れ、西欧の進んだ文明事情に驚嘆した。慶応3年、学塾を芝神明町に移して英学塾、慶応義塾に変えた。



桜田通り(国道1号線)の三田にある慶応大学南校舎

翌年、徳川慶喜が鳥羽伏見の戦いに破れ、江戸に帰り、あとを追うように官軍が江戸に乗り込んできた。諭吉は、当時、官軍が上野の山で彰義隊と戦う砲声を聞きながらも、塾の講義を止めなかったという。諭吉は幕臣ながら、戦争に巻き込まれることなく、塾を三田に移して、一筋に日本の近代学術、高等教育の発展に努めたのである。今、複式簿記で借方、貸方という表記があるが、これは理財の講義で諭吉が英語の表記を日本語に工夫した造語だという。当時は、西欧式の実学の素地がなかったため、日本語で単語をつくることさえ大仕事だったのだ。



諭吉が造り重要文化財になっている三田演説館

昨今、一部上場会社の社長は慶応大学出身が最も多いのだという。研究者、教育者、思想家だった諭吉は、独立自尊を学塾、学生の理念と定め、その精神は今も息づいているのだった。